

「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！」

G.Gプロジェクト イベント報告

準備の段階から雨にたたられっぱなしだったこのイベント、全体への説明ができたのは、やっと当日25日の朝であった。

イベント当日は少々蒸し暑いながらすばらしい好天になり、8時にはならやまに参加会員が集合した。テント設営や準備物の搬出を終えて、やっと打ち合わせ開始。予定していたメンバーの変更や全体の流れの再確認の後、一番大切な飯盒炊さんの手順の確認に時間を割く。特に、今回の飯盒炊さんは当GGで初めての取組みとあって、参加者は真剣そのもので質問にも熱がこもる。ここでは、安全面への配慮は勿論のこと、できるだけ子供達が自分たちで判断して活動してくれるように、つまり自主性に委ねてください、と強調される。

10時に開式、夏休み最初の土曜日を迎え、参加者は子供48名に大人25名と加えて当会員52名に来賓4名である。これだけの人数が狭いならやまBCにひしめき合うのは壮観である。会長挨拶や来賓の祝辞等の後に場所を変えて全体で記念撮影をした。子供達も期待で胸が膨らんでいるのだろう。皆の顔も輝いて見える。きっといい思い出の写真になることだろう。

そして早速飯盒炊さんに取り掛かる。それぞれ炉を作ったり火を熾す係りや、野菜を切ったり飯盒で米を準備する係り等に分かれて作業開始。普段慣れない作業なのか、なかなか仕事が捗らない。中には生まれて初めて包丁に触れたという高学年女子もいてびっくり。家庭の教育の一端を垣間見る思いがした。



それでも予定時間の12時には、ご飯もカレーのルーも出来上がる。おいしそうな匂いに子供達の顔も早く食べたいと叫んでいる。同じく準備されたジュースやお茶、そしてお漬物を添えてやっとカレーライスの盛りつけが完了し、「いただきます。」の大喝采。

沢山準備されたご飯やカレー、そして多くの人と一緒に食べる食事のおいしいこと。これもなかなか家では経験できないことだろう。おかわりをする子も多く、このイベントやってよかったな、と実感した。

午後からは、3つのグループに分かれて昆虫観察や水生生物観察、そして自然工作と順番に30分ずつ活動を行い、最終的に2時30分に活動終了する。

市街地周辺のこれだけの自然に囲まれている環境に住んでいながら、虫を取ったり池に入ったりといった自然経験が不足していた子供達は、緑の草原や泥水の池を目の前にして、歓声をあげる。虫かごの中には一生懸命とったトンボやバッタが入り、これを周りの大人に見せて鼻高々の子供達もいる。

また、自然工作では「もっくん」作りに汗を流す。本当に簡単な自然工作で、ほんの10分ほどで作れるものだが、作業に四苦八苦する子供もいて、やはり経験の差は本当に大きいな、と改めて実感する。

2時30分からは最後の振り返りの時間。長い長い夏休みを有意義に安全に過ごして欲しい、との挨拶とともに、アンケートを書いた後、ならやまで準備したカブトムシをお土産に頂き、それぞれの虫かごに後生大事に入れて児童全員がお持ち帰り。いつまで家で育ててくれるだろうか、半分心配しながら会員も参加者を見送る。

次回のプロジェクトは8月22日(土)。今回の経験を充分踏まえ、より充実した内容のイベントになるように会全体で改善・努力したいと考えている。

(八木 順一)

